

## 早稲田大学 社会学部 (普通科体育コース)

私が、早稲田大学への進学を希望した理由は、勉強に専念できる素晴らしい環境が整備されており、また、バドミントンでも高いレベルのあることや小学校3年生から見てきた先輩にあこがれて同じ大学に行きたいと考えるようになりました。

私は小さい頃から大学の名前は知っていましたが進路希望を明確に決定したのは今年の夏で、部活も続けていたこともあり、本格的に受験対策を始めたのは、試験がある2か月前で、既に私は周りから一歩二歩遅れてのスタートになりました。

それからの日々は、大学・学部を詳しく調べることから始まり、経験のなかった小論文書きをアドバイスをもらいながら書き続けるような生活が続きました。面接練習では、質問に答えられないことが嫌で友達と練習すること、家に帰ってから練習すること、幅広い質問に対応するために調べ学習を繰り返しました。そのことが自分に自信を付けさせることに繋がりました。

試験は、実際に東京のキャンパスで行われ、内容は小論文90分と面接15分でした。小論文の問題が、「高度情報化社会の長所と短所について」というものでしたが、私はその数日前に廊下でたまたますれ違った小田先生から「情報化社会のことは試験に出るかもしれない。」と声を掛けてもらっていました。この時、誰かが、何らかのタイミングで自分にヒントを投げかけてくれていたのかと、後になって気付かされました。このことから、先生方は、生徒の為に、必要なことを取捨選択・精選して接してくださっていることが分かりました。

このように私は、試験が終わってから気付くことが多くありました。まず、何事も「自分から」ということが大切です。自分から目標を持ち、それが達成できる大学、就職場所を探した上で自分から早めに取りかかることで何もしていなかった自分から大きく前進します。その第一歩をいつ踏み出すのかが皆さんの将来を左右することになると思います。ですが、今、こうして「将来に向けて行動しろ。」と言われても実感が湧かない人がほとんどだと思います。しかし、考えてみると大学や社会に出れば指導してくださる先生もいなくなります。先生方は、それを経験されていらっやって、私たち生徒に「後から悔やまないように」という思いで、指導してくださっているのです。

ただ、「勉強しなさい。」「早めに取り組みなさい。」という言葉にも、その中には、大きな意味が込められています。皆さんの親、両親も同じだと思います。それを考えることができたならば、感じる事ができるならば、周囲の人の言葉を素直に受け入れ、自分から行動することができます。卒業はすぐにやってきます。やってもやらなくても過ぎた時間は同じです。皆さんの残りの高校生活、1年生はあと2年、2年生はあと1年、少しで多くの人が、「自分から」行動してくれることを願っています。